

はじめに

香川県学習状況調査は、平成14年度から県内全ての小・中学校で実施されており、各学校では、自校の児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、自校の教育課程を評価する資料の一つとして調査結果を活用していただいているところです。

本年度の調査では、教科に関する調査結果については、中学校において一部課題が見られるものの、全体としては概ね定着しており、全問不正解率や平均無解答率にも改善傾向が見られました。

また、児童生徒質問紙調査では、小・中学校ともに、次のような質問項目で、肯定的に回答した児童生徒の割合が、各学年ともにこれまでの結果と比較して顕著に増加しています。

- ・授業は楽しいと思いますか
- ・分からないところは先生や友達に質問して解決していますか
- ・普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか
- ・普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか

さらに、学校質問紙調査では、「児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めていますか」の質問に、「よく行っている」と回答した学校の割合が、小学校で56.2%、中学校で57.5%であり、昨年度と比較して、小学校が5.9ポイント、中学校が21.5ポイントも増加するなど、言語活動にかかわる指導の充実が図られるとともに、子供の姿としても改善傾向が見られました。

このような中、昨年8月、中央教育審議会において、新しい学習指導要領等の基本的な考え方が「論点整理」としてまとめられました。その中で、いわゆる「アクティブ・ラーニング」について、「指導法を一定の型にはめ、教育の質の改善のための取組が、狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するのではないかといった懸念」が指摘されています。当センターといたしましても、「アクティブ・ラーニングによる授業の質的転換に関する調査研究」を進める中、アクティブ・ラーニングに関するリーフレットを昨年6月から年3回発行し、国の情報について迅速に提供したり、その理解を深める資料等を提供したりしています。今回の報告書の作成に当たっては、昨年度の工夫点に加え、アクティブ・ラーニングに関わる質問一覧も示し、「活用ツール」を用いて県と自校のデータを簡単に比較できるようにしています。

各市町（学校組合）教育委員会や各学校におかれましては、それぞれの分析結果をもとに課題を把握し、改善に向けて日々の授業像などを全教職員で共有するなど、目的意識の共有化とともに、PDCAサイクルに基づく日々の教育実践の改善に向けた取組が継続的に行えるよう検証改善サイクルの一層の充実が図られるようお願いいたします。

平成28年2月

香川県教育センター
所長 倉沢 均